

関係各位

高知県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

令和 7 年度病虫害発生予察特殊報第 1 号を送付します。

令和 7 年度病虫害発生予察特殊報第 1 号

- 1 病虫害名 チュウゴクアミガサハゴロモ *Ricania shantungensis* (Chou & Lu, 1977)
- 2 特殊報の内容 園芸作物での寄生の確認
- 3 発生確認の経過、発生状況
 - (1) 令和 6 年 12 月にチュウゴクアミガサハゴロモの県内への侵入は確認されていたが、今回、県中央部及び中西部でナシやイチジク、カキ等で寄生が確認された。
 - (2) 本虫は中国原産で、国内では平成 29 年頃から関東以西で発生が確認されている。食性は広く、クワ科、ブナ科、マメ科、モクセイ科、モチノキ科等の様々な樹木類や、キク科草本植物に寄生することが報告されている。
 - (3) 令和 7 年 10 月 1 日現在、神奈川県、埼玉県、福岡県、山梨県、東京都等 1 都 1 府 13 県で特殊報が発表され、ナシ等のバラ科植物、カンキツ、カキ、ブルーベリー、イチジク、チャ等で被害が報告されている。
- 4 形態および生態

成虫の体長は 11～14 mm 程度、前翅長は 10～13.5 mm 程度で、在来種のアミガサハゴロモ(体長 7～10mm)やアオバハゴロモ(同 10mm)と比べ、やや大型である(写真 1)。前翅は茶褐色から鉄さび色、前翅前縁中央部に丸みを帯びた三角形の白斑がある(写真 2)。幼虫は白色で、背中の上部には小さな黒点があり、白い糸状の蠟物質が腹部から毛束の様に広がり、特徴的な外観をしている(写真 3)。卵は寄主植物の枝の内部に産み付けられ、産卵痕は白色の蠟物質で覆われる(写真 4)。
- 5 被害

成虫及び幼虫が枝を吸汁加害し、発生が多い場合には、すす病の発生が見られる。また、多数の卵が直径 10 mm 以下の枝の内部に産み付けられるため、枝の組織を傷つけ、枝折れ被害が生じることがある。
- 6 防除対策

現在、本虫を対象とした登録農薬はない。幼虫や卵が付着した枝(写真 3、4)を見つけた場合には放置せず、切除して埋却する等適切に処理を行う。



写真1 成虫



写真2 成虫



写真3 幼虫



写真4 産卵痕

お問合せは、病害虫防除所(TEL：088-863-1132)または環境農業推進課(TEL：088-821-4861)まで